



# 消防学校 ニュース



令和6年6月号

特集

## 第1回 野外訓練 in 浜石岳

～苦しい 疲れた もうやめた では人の命は 救えない～

令和6年5月16日（木）、初任科第95期の学生は小雨の中、約20kgの資器材（ホースや飲料水等）を背負い、全行程約30kmの野外訓練に臨みました。

この訓練は、野外での集団訓練を通じて消防活動を遂行するために必要な脚力、持久力等の体力並びに強靱な精神力と共同精神を成熟させることを目的とした大変厳しい訓練です。

### 開始式



体力向上体操



出発



# 訓練 想定

被災地に車両等で向かうことができないため、徒歩にて現場に向かう。ただ、あくまでも浜石岳山頂は行程の中間地点であり、最終目的地（被災地）は消防学校である。目的地に着いたら、現場活動が待っていることを念頭に活動すること。



## 全体目標

救える命を救う為に歩き続ける。

## 班別目標

1班	声をかけて脱落者を出さない。	4班	救助を求める人の為に覚悟と自信で前へ進む。
2班	己の限界を知り、実災害を想定した活動をする。	5班	誰一人欠ける事無く完歩
3班	周囲への気配りと班員同士で団結し、全員で完歩する。	6班	みんなで完歩

## 行程表

	行程(実績時間)	距離・所要時間
1	消防学校 → 薩埵峠駐車場 7:50 出発 8:30	3.0km 40分
	(第1回休憩 10分)	
2	薩埵峠駐車場 → パーベキュー場 8:40 9:45	4.9km 55分
	(第2回休憩 15分)	
3	パーベキュー場 → 浜石岳野外センター 10:00 11:13	3.7km 73分
	(第3回休憩 22分)	
4	浜石岳野外センター → 浜石岳山頂 11:35 12:15	一部山道ルート 40分
	(雨天のため人員確認後、折り返し)	
5	浜石岳山頂 → 浜石岳野外センター 12:20 12:55	舗装ルート 35分
	(第4回休憩「昼食」45分)	
6	浜石岳野外センター → パーベキュー場 13:40 14:30	3.7km 50分
	(第5回休憩 15分)	
7	パーベキュー場 → 由比駅東公園 14:45 15:10	2.3km 25分
	(第6回休憩 10分)	
8	由比駅東公園 → 薩埵峠駐車場 15:20 16:06	3.2km 46分
	(第7回休憩 10分)	
9	薩埵峠駐車場 → 消防学校 16:16 17:02	3.0km 46分



## 学生感想

- ・改めて自分に対する甘さ、体力の無さ、精神面の弱さを自覚すると共に、仲間の大切さを実感しました。
- ・事前の準備を怠れば、本番での対応が困難になることを改めて痛感しました。
- ・日頃から行っている人員確認がとても重要であることが分かりました。
- ・人を救う側の者として、さらなる努力をしていきます。
- ・途中でやめたくなくなったり、心が折れかけて泣きそうになるくらいしんどかった。しかし、班員、部屋員がいたおかげでなんとか歩くことができた。
- ・自分の弱さを再認識し、現状の体力を知ることができた。次回は仲間を支えられるような存在になりたい。
- ・自分自身に何が足りていないのか、今後、消防士として必要なことは何なのかを理解させてくれた野外訓練でした。

## 担当教官 から一言



4月に入校した初任科学生は、日々の取り組みで自分達がどれほど成長したかを計り知る訓練として、第1回野外訓練に臨みました。

開始式に整列した学生達は、やる気に満ちあふれた者や不安そうな表情を浮かべる者など様々でした。訓練は小雨の降る中で実施され、濡れた着衣により体温が奪われ、急斜面の山道に体力が削がれ続けるなど、とても過酷な訓練となりました。学生たちは心が折れそうになりながらも、お互いに鼓舞し合い、消防人としての意識と覚悟を胸に、任務を完遂すべく全員が前だけを見据え一歩ずつ進んで行きました。

数名のリタイア者が発生したことは悔やまれますが、学生一人ひとりにとって野外訓練を経験したことや、完歩できたことは大いに自信になったはずですよ。この野外訓練を通して、自分の弱さを知り、仲間の大切さに気付いたのではないのでしょうか。教育期間も残り約3か月間です。この気持ちを忘れずに、更なる成長を期待します。

教務課主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

## 初任科 雨中での訓練



## ～雨にも負けず～

出動要請・救助要請は晴天の日ばかりではありません。消防学校では、雨天であろうと訓練を実施しています。学生は、合羽を着て雨の中での訓練を行っています。学生は、「一秒でも早く、人の命を助ける」という信念のもと、雨の日も暑い日も、頑張って訓練をしています。

初任科  
第95期

# ホットトレーニング



5月29日（水）30日（木）の2日間、座学だけでは得られない火災性状の更なる理解と火災の危険性を感じさせるため、ホットトレーニングを実施しました。

- ① 建物火災における熱環境及び濃煙を体感すること
  - ② 火災初期からの燃焼過程を確認すること
  - ③ 個人装備品の重要性を理解すること
- の3つの目的を学生に伝え訓練に臨みました。

## 訓練目的

（担当教官から）

建築建材や収容物の多様化により、熱放出率の増大や気密性向上に伴う火災性状の変化、消火困難性の拡大など、消火活動はより高度な知識と技術が必要となっています。

火災性状を理解することは、消防活動を行う上で必須の知識であり、初任科学生は、この訓練を通じて座学で学んだ火災理論についてより理解が深まったことでしょう。

また、実火災に近い熱環境を体感することで、消防活動の危険性を感じ、適切な个人防护具の着装がいかに重要であるかを感じられたことと思います。

現場経験のない学生にとってこの訓練は、貴重な経験になったことと思います。この訓練で得た「気づき」、「経験」を所属へ戻ってから現場活動に活かしてほしいです。

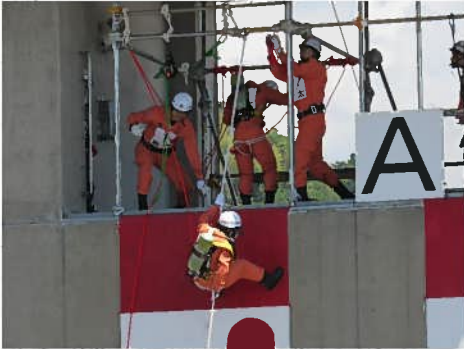
教務課主査 仲村 直樹（下田消防本部から派遣）

# 静岡県消防救助技術大会

6月4日(火)、第52回静岡県消防救助技術大会(静岡県消防長会主催)が本校で開催されました。県内16消防本部(局)から精鋭が集まり、救助技術を競い合いました。

5年ぶりに一般来場者を迎えての開催となったこともあり、多くの声援の中、大変盛り上がった大会となりました。

## 大会種目



引揚救助



はしご登はん



ロープ応用登はん



ほふく救出



ロープブリッジ渡過



ロープブリッジ救出



障害突破

## 初任科学生の任務



プラカード保持



競技掲示板管理



審査表・タイム表回収



訓練披露(体力向上体操)

(担当教官から)

初任科学生は、救助大会運営補助として、プラカード保持、掲示板及び審査表・タイム表回収を行いました。運営補助以外では、全力で競い合う先輩職員の姿を間近で見られ、多くの刺激を受けたことと思います。

体力向上体操では、日頃の訓練成果を十分に発揮し、110人の学生の心を1つにした訓練披露ができ、学生たちの成長を感じました。これからの教育訓練も全力で挑み、成長することを期待します。

教務課主査 都築 克典(静岡市消防局から派遣)

# 危機管理部新任職員等現地視察研修



5月23日(木)に、静岡県危機管理部等に転入してきた職員9人が視察研修に訪れました。

教育訓練の概要の説明を受けた後、校内施設と初任科生の訓練を見学しました。

学生の訓練に取り組む真摯な態度と、教官の厳しい指導の様子を見て、いざという時に頼りになる消防職員は日々の地道な鍛錬の賜物である事を感じたことと思います。そして、危機管理部の職員として、日々の準備の大切さを改めて認識したことと思います。

## 三沢校長から一言

一昨日(6月18日)は今年一番の大雨で、県東部を中心に被害が出ています。家屋の一部損壊や浸水に遭われた皆さんにはお見舞いを申し上げます。

初任科生は大雨の中、グラウンドで消防活動訓練を実施しました。防火服を着用しているため、熱中症が心配されるような天気よりは涼しくて楽だったかもしれません。

さて、昨年は線状降水帯が発生、私は帰路につきバイパスの清水港辺りを走行中に遭遇し、ほとんど視界がない恐怖を味わいました。ガードレールに衝突する寸前でした。以来、身の安全のため、大雨なら出勤しない、学校にいるときには帰らないと決めています。今回も線状降水帯の予報が出ていましたが、出勤時間の雨は大したことなく、元気に出掛けたのは良いのですが、途中で2回ほど大雨になり、出掛けたことを後悔しました。清水ICの東側、新幹線のガード下は雨が降るたび大きな水溜りができ、下手すると通行止めになります。その東側から高架になる手前までは中央分離帯側に雨水が溜って、反対車線のトラックが跳ね上げる水をかぶり、さらにはハイドロプレーニング現象を起こしてしまいます。新たな高架の工事が進んでいますが、上記の箇所は高架化によって改善されることはありません。国道事務所には苦情が届いているはず。早く改善してほしいものです。

6月25日からは水難救助科の訓練が始まります。初任科生が校内で教育訓練を受ける先輩を目にするのは初めてであり、模範となる態度で初任科生により刺激を与えてほしいと思います。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索